

稲・大豆作情報 (NO. 9)

1. 水稻作況情報田の生育概況 (8月28日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 c m	茎 数 本/m ²	主稈 出葉数	葉色 SPAD	
夢しずく 佐賀市 本庄町	6/17 17.7株/m ² (平年6/16,18.1)	本 年 平 年 平年比			出穂期 8月17日 (平年より1日遅い)		8月5半旬は、高温(+2.0℃)、寡日照(96%)、少雨(13%)で推移した。 ◇平年と比べ、
さがびより 小城市 芦刈町	6/20 18.6株/m ² (平年6/19,17.2)	本 年 平 年 平年比	89.2 96.3 (93)	409 410 (100)	15.3止葉 15.0止葉 (0.3)	34.9 34.1 (0.8)	草丈：「さがびより」「ヒヨクモチ」ともに低い。 茎数：「さがびより」は平年並み、「ヒヨクモチ」は多い。 主稈出葉数：「さがびより」は止葉抽出済み、「ヒヨクモチ」は止葉抽出中。
ヒヨクモチ 小城市 牛津町	6/28 19.6株/m ² (平年6/27,18.8)	本 年 平 年 平年比	70.9 76.6 (93)	639 539 (117)	15.6 15.3 (0.3)	35.6 39.2 (-3.6)	葉色：「さがびより」でやや濃く、ヒヨクモチは淡い。 ★「さがびより」は8/31前後、「ヒヨクモチ」は9/5前後の出穂予想。

注1) 各品種 前作：麦 注2) 施肥及び病害虫防除は地区基準に準ずる
注2) 平年値は、過去10年間(H25~R4)の平均値(さがびよりについては、R1年を除くH24年~R4年の平均値)

◆農業試験研究センター米づくり情報 第9号 8月28日(抜粋)

移植日	項 目 品 種	年 次	草 丈 c m	茎 数 本/m ²	葉 齢 L	葉色 SPAD	概 況 (平年と比較して)
6月19日	夢しずく	本 年 平 年 平年比(差)			出穂期:8月17日 出穂期:8月17日 ±0		[気象] 8月21日~8月27日まで ◆平均気温…高い(平年差+2.0) ◆日照時間…長い(平年比113%) ◆降水量…少ない(平年比9%) [生育] ◆草丈 「さがびより」はやや低く、「ヒヨクモチ」は平年並み。 ◆茎数 「さがびより」「ヒヨクモチ」どちらも多い。
	ヒノヒカリ	本 年 平 年 平年比(差)			出穂期:8月27日 出穂期:8月27日 ±0		◆葉齢 「ヒノヒカリ」の主稈葉数は平年並みであった(主稈葉数:本年14.5、平年14.3)。 「さがびより」は平年並み、「ヒヨクモチ」はやや進んでいる。
6月20日	さがびより	本 年 平 年 平年比(差)	92.3 96.7 95	462 418 111	15.0 15.2 -0.2	34.5 33.3 +1.2	◆葉色(SPAD値) 「さがびより」はやや高い、「ヒヨクモチ」は平年並み。
	ヒヨクモチ	本 年 平 年 平年比(差)	80.0 80.9 99	658 446 148	16.2 15.4 +0.8	35.9 35.7 +0.2	◆葉耳間長 「さがびより」は+11.8cm、「ヒヨクモチ」は+6.0cmとなっている。
留意点	○ 水管理は、穂肥施用時の湛水管理を除き、引き続き間断灌水を行う。 ○ トビイロウンカ、紋枯れ病、斑点米カメムシ類の発生が多くなると予想されている。圃場での発生状況を確認し、状況に応じた防除を行う。						

注1) 耕起概要等は前号参照。

2. 水稲管理

生育ステージは早生種が登熟期、中晩生種は穂孕み期～出穂期を迎えている。
収量・品質に影響を及ぼす時期でもあり、水管理・穂肥・病虫害防除を適正に行う。

○共通管理

- ・全品種、水分ストレスに敏感な時期となっているため、強い水分ストレスを与えないよう間断灌水を励行し、湿润状態を保つ。
- ・気象庁の1か月予報では、今後も高温が続くと予想されている。
夜間の高温は、穂への養分転流が劣り、登熟歩合の低下や白未熟粒発生による品質低下が懸念される。
昼間のごく浅水→夜間の湛水管理を行い、なるべく地温を下げるよう努め、収量・品質の向上を図る。

○穂肥

ヒヨクモチ

- ・幼穂形成期～穂孕期を迎えている。
- ・穂肥は下記の診断結果を基に施用する。
- ・穂肥施用時は湛水し、その後の間断灌水では、地固めと根に空気を送るため落水期間を確実にとる。
地が緩い場合は、落水期間をやや長めにとる。

ヒヨクモチの穂肥施肥基準(分施タイプ)

	穂肥Ⅰ (kg/10a)	穂肥Ⅱ (kg/10a)	実肥 (kg/10a)
施用時期の目安	8月15～17日頃 (幼穂形成始期 幼穂長1ミリ頃)	8月25～27日 (穂肥Ⅰの10日後)	穂揃期 (9月8日～10日頃)
LPBB804	40	—	—
BB602	25	10	10

※「全量元肥施用田(一発くん)」において、穂肥Ⅰ～Ⅱの時期に **SPADで40を切る場合には、窒素成分で2kg/10a程度(BB602 10～20kg/10a)施用する。**

○病虫害情報(発生および防除)

【トビイロウンカ】

- ・8/28調査した圃場では、トビイロウンカは確認していないが、その他ウンカ類の幼虫を少ないが確認している。今後も発生状況を注視し、適期適正防除に努める。
- ・防除効果が高い時期は、幼虫ふ化揃い期である。
【有効薬剤：オーケストラ・エクシード・エミリア など】
- ・防除する場合は、湛水するとともに薬剤が株元まで十分にかかるように丁寧に散布する。

【コブノメイガ】

- ・各地で誘殺数が増加している。(特に「ヒヨクモチ」で多い傾向：ほぼ全株で食害あり)。
- ・止葉を含む上位3葉に被害が発生すると減収につながるため、幼虫ふ化揃い期(発蛾最盛期の7日後)に防除を実施する。

【斑点米カメムシ】

- ・8月の発生量は、やや多発生の予報である。
- ・耕種的な防除として、畦畔除草を出穂10日前までに行う。
出穂後の除草は、水田内に斑点米カメムシ類を誘い込んで被害を助長するため、時期を逸した場合には収穫前まで除草しない。

- ・山麓部や河川敷付近など、例年発生の多い圃場では田廻りを励行し、防除を徹底する。
- ・防除はカメムシが穂に上ってくる夕方に行うと効果が高い。

草刈りの時期(目安)	斑点米カメムシ類の防除時期
全品種行わない	◎多発生:「穂揃い期」及び「乳熟期」の2回防除 ◎少発生:「乳熟期(出穂の約15日後)」1回防除

【紋枯病】

- ・8/28の調査では、更なる進展は確認していない。夢しづく圃場など一部では発生が見られる圃場もあるため、発生を認めた圃場では病斑が上位の葉鞘に進展する時期(液剤、粉剤の場合は出穂20~10日前を目安とする)に防除を徹底する。

3. 大豆管理 ~ 生育に応じた適正管理を ~

大豆は開花期以降、特に水分を必要とする。一部地域では夕立など適度な降雨があるが、今後も高温・少雨が予想されるため暗渠排水の栓を閉めるなどして、土壤水分の確保に努める。

一方で局地的な大雨も予想されるため、明渠や畝間、排水溝をつなぎスムーズな排水ができるよう整備しておく。

○生育状況

- 7月15日播種 開花期最盛期(開花期8/24頃)
- 7月20日播種 開花期8/27頃

○中耕・培土

- ・7月中旬播種の圃場では開花期となっているため、実施しない。
- ・それ以降播種の圃場でも、断根による株の活性低下の恐れがあるため、開花前までに終える。

○雑草対策

- ・イネ科雑草が多いところでは、ポルトフロアブル、ナブ乳剤等で防除する。
- ・広葉雑草が多い場合は、アタックショット等で防除する。
アタックショット使用時の留意点
- ・開花前までの登録となっているので注意する。
- ・重複散布や他の茎葉処理剤との混用、展着剤の加用、粒径の細かいノズルによる散布、軟弱徒長気味の大豆への散布は、薬害を助長するため避ける。
- ・アサガオ類やホオズキは、繁殖力が強く、放置すると次年度以降の発生量が多くなるため、圃場内はもとよりまくら地や畦で発生している場合は、必ず抜き取り圃場外へ持ち出すか薬剤散布での防除を徹底する。

○水分ストレス対策(干ばつ対策&スムーズな排水対策)

大豆の根は、水分ストレスに弱く、長時間の浸水やその前後の干ばつに大きく影響を受ける(早期落葉、小粒化など)。圃場内に長時間滞水することがないように、排水路まで畝溝をつなげておき、大雨後は速やかに排水できるようにしっかりと整備を行っておく。

○病害虫対策（発生及び防除）

- ・ハスモンヨトウ、オオタバコガなど鱗翅目幼虫の被害は、全体的にはやや少ない状況である。
- ・葉の食害跡に注意しながら圃場巡回を行い、確認後は適正防除に努める。

ハスモンヨトウ・オオタバコガ・ウワバ類・・・プレバソン・ペガサスなど
シロイチモジヨトウ・・・プレオ・ディアナなど

- ・「病害虫発生予察情報予報第5号（8/9発表：大豆 8月下旬）」で、8月下旬は以下の予報が出ているため、今後も発生状況に留意し、適切な管理を行う。

【ハスモンヨトウ】

今後の気象予報も、気温は高く、降水量はやや多く、多発の条件となっている。

- ・白変葉（若齢幼虫の集団による被害）の増加し始めが防除適期のため、圃場をよく観察し適期防除を実施する。また、かけムラがないように規定の範囲で十分量を散布する。

【他のチョウ目：オオタバコガ・ウワバ類など】

- ・葉に大きな穴が開いた株が目立ち周辺に青虫がいる場合は、オオタバコガによる食害の可能性が高く、稀にミツモンキンウワバやシロイチモジヨトウが含まれる場合もある。
- ・オオタバコガやシロイチモジヨトウには、ノーモルト、トレボンは感受性が低下しているため、使用を避ける。また、防除にあたっては周辺作物へのドリフトに注意し実施する。



【カメムシ類】・・・やや多い

現在、カメムシが確認できる圃場が多いので、莢の伸長初期から子実肥大中期に適切に防除を実施する。

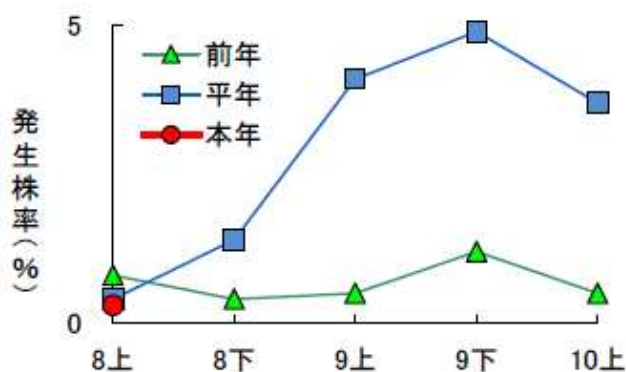


図1 大豆でのハスモンヨトウの発生推移

令和5年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

佐城農業振興センター

